

平成 29 年度第 3 回ゼニガタアザラシ科学委員会  
議事概要

文責：環境省

議事 1. 平成 29 年度事業の実施結果について

＜被害防除対策、個体群管理について＞

○事務局より、資料 1-1、1-2、資料 2 に基づき説明

- ・被害防除対策については、定置網に設置する格子網の材質や目合の大きさを変化させるなどの工夫を行った。被害量はある程度、減少していると考えられるが、今年度もサケが記録的な不漁であったため、効果の検証は難しい。
- ・音波忌避装置は耐久性の課題や海況の影響により長期間の設置ができなかったが、設置期間中は被害の軽減が確認された。来年度、耐久性の向上等を図り、長期間にわたって被害軽減効果があるのか確認したい。
- ・個体群管理については定置網に設置した捕獲網と刺し網で捕獲。当初目安とした 140 頭に近似する合計 137 頭を捕獲した。

○北門委員より、「ゼニガタアザラシ襟裳個体群に対する捕獲影響シミュレーション」について報告・提案

- ・シミュレーションの想定より当歳が多く捕獲されたことによる個体群動態への影響を計算したところ、現在のシミュレーション上は大きな影響を示していないと考えられる。
- ・次期管理計画の策定にむけて、資源管理方策評価法（MSE）に基づく資源管理手法を早急に検討してはどうか。

◆主な意見等

- ・年齢組成も大事だが雌雄の比率も考慮されるべき。
- ・春にメスが多いのであれば繁殖地の近くで捕獲している影響ではないか。
- ・格子網の目合を 18×18cm にしてからほとんどアザラシは入らなくなった。（漁業関係者）
- ・学習効果もあり対策した網には近づかなくなる海外の事例もある。

＜被害状況、モニタリング作業部会における検討＞

○事務局より、資料 1-3、1-4 に基づき報告。

- ・今年度は漁獲量が極端に少なかったことから、防除対策や個体群管理によって被害が軽減したかどうか検証することが難しい。
- ・個体群動態シミュレーションモデルの基礎データとして、UAV（ドローン）の活用、上陸割合の変化検証、他の生息数把握調査手法の検討を引き続き行うとともに、得られたデータは次期管理計画を評価する際に反映する。

○今年度のモニタリング調査の中間報告（捕獲・混獲個体の繁殖状況、胃の内容物調査等）について、急遽欠席となった小林委員に代わり事務局より説明。

#### ◆主な意見等

- ・漁業関係者の被害感覚はどうか。
- いくらか減っているように感じる。(漁業関係者)
- ・被害量や被害金額だけではなく、アンケート等で漁業者の被害意識を把握することも重要。
- ・繁殖個体の判別は春と秋に分けて考えるべき。行動圏は判断しにくい(数日のデータしかない) 個体もある。長期的に取得できた個体については、季節毎の行動圏の違いも示して欲しい。胃内容物も春と秋、年齢構成、性別で分けるべき。
- ・ゼニゴマ(ゼニガタアザラシとゴマフアザラシが交雑したと考えられる個体)について、扱いを明確にすべき。
- ・ミズダコなどの胃内容物推定も注意が必要。

#### 議事 2. 平成 30 年度事業実施計画(案) について

○事務局より、資料 2 に基づいて説明。

- ・昨年度と大きな変更点はないが、防除用格子網の網目を菱形にするなど、漁業関係者から提案のあった案も試していきたい。
- ・音波忌避装置のバッテリー容量を改善し、長期的な効果を検証する。
- ・個体数を事業開始前の 8 割とするため、捕獲目処は今年度同様 140 頭とする。
- ・事業の効果検証を行うため、引き続きモニタリング調査を継続する。

#### ◆主な意見等

- ・個体数が減少しているか検証するのに信頼性の高いのはドローンのデータだが、混獲数の推移も指標になると思われる。
- ・現状では捕獲頭数を目処にすることで仕方がないが、何をもって事業の成功とするのか明確にすべき。
- ・漁業被害が軽減しアザラシと共存できるのが目標であるが、「共存できる」という状況をソフトの面でどう示し、評価すべきか検討すべき。
- ・生息数を 8 割にできたとしても、それで地域が納得するかはまた別の話なので、地域の被害意識みたいなものを組み入れた新たな管理方針を検討すべき。(羽山委員)
- ・モニタリング作業部会では従来からの個体数モニタリング手法の検討に加えて、資源管理方策評価も併せて検討してはどうか。
- ・事業結果の評価をきちんと行い、地域の意見も伺いながら次期計画を立てていきたい。そのための計画策定スケジュールを検討する。次年度も引き続き作業部会等で具体的な方法論等について検討を行っていきたい。(事務局)

#### その他

- 「えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会」を 3 月 13 日(火)に「えりも町林業総合センター」において開催する。

以上